



まだまだ終わりが見えないコロナ禍……。でも、地域のなかには「できること探し」から生まれた支え合いがたくさんあります。※くらしき互近助パントリーを活用した子ども食堂（地域食堂）や食材や生活用品を必要とする方にお渡しする交流イベントのフードシェア会の広がりもその一つです。

子ども食堂と聞くと、子どもが中心の居場所に思えますが、若い世代とアクティブシニアの交流の場、活躍の場にもなっています。今回は地域で工夫しながら「食」と「居場所」をつなぐ活動を紹介します。

※くらしき互近助パントリーとは、善意で寄せられた食材や生活用品などを地域の身近なご近所で活用し、互いに助け合う活動に活かす取り組みです。

五福地区社協 互近助パントリー

コロナ禍で地区社協の事業もこれまで通りの開催が難しく、地域のなかで顔を合わし、交流する機会が少なくなっています。地域の皆さんが交流するきっかけづくり、困りごとを抱えている人の居場所づくりとして、五福地区社協で始めたのが「互近助パントリー」の取り組みです。月1回、食料品や生活雑貨などを集め、必要としている人におしゃべりしながらお配りしています。

また、当日の会場では手芸のサロンも開催しており、パントリーをきっかけに、自然に趣味活動につながる取り組みにもなっています。



▲当日の様子。地域の「情報」が集まり、見守り活動にもつながっています。

地域の馴染みの関係が「人」と「人」をつなぐ！

大正橋こども食堂

地域の子どもたちを孤立させないことを目的に、令和3年7月に児島地区にオープンした「大正橋こども食堂」には、駄菓子屋のオーナー、地域の若者、民生委員、婦人会、高校生、個人ボランティア、地域の企業・団体、高齢者支援センター、社会福祉協議会など、多くの協力者が集まります。一つ一つの力は小さくても、多くの人の思いが一つになることで、支援を受ける人、支援をする人という枠組みを超えた「お互いさま」の居場所が構築されつつあります。



▲▶当日の様子。すべての世代が集う「懸け橋」となっています。

たくさんの人々の思いが、「人」と「居場所」をつなぐ！



「くらしき互近助パントリー」は、皆さんのお近くに「食料品」や「生活雑貨」と一緒に「優しいお節介さん」を配置する活動です。

食料品・生活用品の提供も大募集！！

こども食堂めぐりあい

デイサービスの事業所が地域貢献活動として、地域住民にも参画してもらいながら今年の8月からこども食堂を始めました。立上げに向けた打ち合わせから、地区の民生委員にも協力してもらい、子どもだけではなく、独居高齢者や障がい者など、多世代が集える居場所を目指しています。



▲お弁当を作るのは、デイサービスの有志の職員とボランティア。地域の方から野菜が届き、料理の一品にも使われています！

コロナの影響で、皆でわいわいと会食することはまだ難しいので、事前予約制でお弁当を作り、お渡しをしています。

チラシも手作りし、民生委員の訪問時や高齢者サロンの開催時などにお配りし、誰でも気軽に参加できるように工夫しています。

**法人(事業所)の取組みが、
地域を支える！**

ほんわかキッチン

玉島上成地区の天理教の教会では、「地域のつながりをつくりたい」という思いから、子ども食堂「ほんわかキッチン」を始めました。持ち帰り弁当の販売や、地域から集まった野菜の提供なども行っています。地元の親子連れや高齢者にも喜ばれており、徐々に利用する方々からも「活用して欲しい」と野菜などの食材が届くことも増えました。会場に来れない方には、ご近所さんが届けてあげたりと「お互いさまの助け合い」が地域に広がっています。



▲地元の野菜の提供。他にも焼き芋やかき氷など、季節に合わせて子どもが喜ぶイベントがあり、自然と世代間の交流が生まれます。

◀裁縫が得意な高齢者が、看板幕を縫ってくれました。

地域を想った活動は、地域が後押ししてくれる！

通いの場トピック



こんな通いの場の活動もいろいろ！



玉島のサロンでは「そういえば水島の臨海鉄道って乗ったことないよね」という話で盛り上がり、ちょっと足を延ばしてお出かけ。ひとりだときっかけがないことも、メンバーがいるからできた、初めての体験になりました。

通信の詳しい内容を知りたい方や地域の中で「何かしたい」とお考えの方！生活支援コーディネーターに、お気軽にご相談ください！



問い合わせ先

倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 倉敷市笹沖180番地 ☎086-434-3301